

平成 22 年 6 月 22 日

福生市長 加藤 育男 殿

福生市環境マネジメントシステム監査チーム

伊東 静一

榎本 安希

国府田 諭

山西 年男

吉野 光男

## 独自目標監査報告書

LAS-E 独自目標の監査結果について、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査日時

平成 22 年 6 月 22 日(金) 13:30~16:00

### 2. 監査対象

福生市役所

### 3. LAS-E 監査内容

#### 【独自目標（平成 21 年度実績）監査】

① エコアクション(環境活動)部門	第 1 ステージ	A110
② エコマネジメント(環境経営)部門	第 1 ステージ	B110
③ エコガバナンス(環境自治)部門	第 1 ステージ	C107

#### 4. 監査結果

部 門	平成 21 年度 数値目標	達 成 状 況	部 門 評 価
エコアク ション 部門	1 グリーン購入の達成率 紙 類 97.6%以上	△	△
	〃 自動車 48.9%以上	○	
	2 コピー用紙の使用抑制 A4 換算 4,993 千枚以下 (前年度比で 2%以上削減)	△	
	3 電気の使用削減 6,243MWh 以下 (前年度比で 1%以上削減)	×	
	4 自動車利用によるガソリン・軽油の使用削減 合計 29,176 リットル以下 (前年度比で 2%以上削減)	○	
	5 本庁舎における可燃廃棄物の排出削減 1,395kg 以下 (前年度比で 1%以上削減)	○	
エコマネ ジメント 部門	6 環境推進委員会の開催 年 1 回以上 マネージャー会議の開催 年 3 回以上	○	○
エコガバ ナンス 部門	7 環境審議会の開催 年 1 回以上 環境基本計画の進捗状況の報告 年 1 回以上	○	○

※ 達成状況：○＝達成、△＝一部未達成、×＝未達成

※ 評価：○＝良好、△＝軽微だが改善すべき点あり、×＝勧告に値すべき点あり

## 5. 所見

平成 21 年度の独自目標について監査した結果、エコアクション部門を△、エコマネジメント部門およびエコガバナンス部門を○と評価しました。

全体的に職員の地道な取り組みが維持され、事務局における数値管理も可能な限り行われていることを評価します。一方、結果の分析や取り組みへのフィードバックという点ではさらに踏み込んだ対応を望みます。

エコアクション部門は、昨年に引き続き△としました。自動車のグリーン調達率、自動車のガソリン・軽油使用量および可燃廃棄物排出量については目標が達成されていたものの、紙類のグリーン調達率、コピー用紙の使用抑制、電気使用量の削減で目標に至りませんでした。

自動車のガソリン・軽油使用量は、職員の公用車から自転車利用への転換が効果を上げ目標の 2%削減を上回る 8.4%削減となりました。日常の積極的な取り組みの成果として評価できます。

紙類のグリーン調達率については、目標値の 97.6%に対し 88.5%の実施にとどまりました。原因として、納税通知書等の用紙でグリーン調達に適合する製品が少ないことが挙げられました。昨年も同様の理由で目標達成に至らず再挑戦しましたが、物品供給の壁が大きいことが分かりました。結果として項目別の評価は△となりました。

コピー用紙については、平成 20 年度実績に対し 2%削減を目標にしましたが、1.6%増という結果になりました。実数では、A4 サイズ換算で 458 万枚以下に抑制することが必要だったのに対し、475 万枚が使用されていました。ただし、基準となる平成 20 年度実績が本監査の直前まで一部誤って集計されており、実際の取り組み期間中は「平成 20 年度の実績は 501 万枚であり、その 2%減の 499 万枚以下をめざす」と周知されていました。この周知された実数に比べれば 20 万枚以上削減されていたのですが、項目別の評価は△とせざるを得ませんでした。

平成 20 年度の誤集計は、過去の数値での疑問を精査する中で明らかになったとのこと。その姿勢自体は数値管理が芽生えてきた査証として肯定的に評価します。

電気使用量については、平成 20 年度実績に対し 1%削減を目標にしましたが、0.3%の削減にとどまりました。平成 20 年度から新しい本庁舎が完全稼働しており、設備面での条件が変わらない中、職員の日常的な省エネ行動が対策の中心でした。施設別に見ると本庁舎では 15%削減という大きな効果が見られましたが、他の施設での開館日の増加等による使用増で相殺されています。電気使用量の大きい施設や、開館日が増える傾向にある市民利用施設等では、職員の省エネ行動に頼る削減には限界があります。設備・機器に対する計画的な取り組みが必要と思われます。

エコマネジメント部門およびエコガバナンス部門では、環境マネージャー会議が目標を上回って開催され、他の項目は目標と同じ開催・実施回数でした。評価としては○としましたが、単に回数を目標値にするだけでなく本質的な目標設定が望まれます。

今後の課題は、結果をより深く分析し、各部署での取り組みに活かすことでしょう。そのためには、部署別の電気使用量など実行部門での「見える化」が必要です。施設・設備ごとの事情はあると思いますが、できる限りの工夫を期待します。